

## 5 地図活用のステップ

### (1) はじめに

地図活用の技能は、社会科だけでなく、生涯にわたって役立つ技能です。小学校及び中学校学習指導要領社会科の「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「指導の全般にわたって、資料を選択し活用する学習活動を重視する」「各学年において、地図や統計資料を効果的に活用し、」などといった、地図活用の技能に関する記載があることが分かります。地図活用の技能は、小学校から中学校、そして高等学校と、子どもの発達段階に応じて系統立てた指導が必要なものです。ここでは、発達段階に応じて地図を活用する技能をどのように育てていくのか、その具体的な指導方法を紹介します。

### (2) 地図活用の初期指導（幼児期から小学校低学年まで）

子どもの地理的認識は、幼児の段階から少しずつ深まっていきます。初めは、自宅の周囲の様子が分かるようになり、次いで普段よく行く場所（例えば、近くの公園や幼稚園・保育園など）を含めて認識するようになります。小学校に入学してからは、活動範囲も拡大し、より広い地域の様子が分かるようになります。子どもたちは、普段の生活や遊びを通じて、ごく身近な地域の地理的認識を深めていくのです。

こうした幼児期から小学校低学年の子どもたちの中には、地図を「地図」として認識していない子どももたくさんいるので、この期間を地図活用のための準備期間と捉えて、地図が読めるようになるための基礎的な力を養うことに重点を置きます。この指導の中心を担うのが生活科です。生活科の授業で、地図活用の基礎力養成について授業者がほんの少し意識するだけで、その後の地図活用能力は飛躍的に高まります。

何かを学ぶというよりも、地理に対する感覚を“磨く”ことを心掛ける指導が中心となるでしょう。では、以下にその指導のポイントを具体例と併せて、4点挙げます。

- ア 具体的な活動や体験を通じて身近な地域の様子を把握させる**
- イ 位置や地形の様子を言葉で表現できるようにさせる**
- ウ 自分なりの表現で楽しく地図を描けるようにさせる**
- エ 経路を理解し表現できるようにさせる**

アでは、学校の配置図や学校周辺の略地図を活用し、特徴的な建物の位置関係を確認したり、大まかな距離（遠い、近い）などを確認したりすることで、実際の地域の様子を把握させます。

イでは、「急な坂道」、「大きな左カーブ」、「広い公園」、「高い山が見える」のような様子を具体的に表現する言葉を子どもたちは意外と使えないので、適切な指導が必要になります。

ウでは、子どもたちに自宅や学校周辺の地図を描かせてみましょう。中には、絵のような地図（絵図）を描いてくる子どももいますが、まずは楽しく地図を描かせることを意識しましょう。

最後にエでは、最も身近な経路として通学路の様子を絵地図などに描かせることで、子どもの経路の認識を高めましょう。その際、低学年の子どもの場合、経路やその特徴（道路や交差点の様子、分岐点やその目印、大まかな距離や方向の感覚など）をうまく説明できないことが多いので、授業者が適切に支援をする必要があります。

### 指導の例 「宝の地図」で宝探し

- ・教室や校舎を描いた学校内の配置図を基に、「宝の地図」を作り、宝探し活動をさせる。
- ・例えば「校庭の木から運動場に向いて右へ 50 歩進め」などの指定を入れることで、距離感覚や方向感覚を育むことができる。

留意点：方位の目標物になるような特徴的な山や建物などを示すことで、3年生以降の方位の学習の準備となる。

### 指導の例 家から学校までの道を描いてみよう

- ・通学路の様子を絵図や絵地図に描かせる。
- ・紙からはみ出す場合は、継ぎ足して描かせる。(細長い地図ができる)
- ・その地図を使って、子ども自身に通学路の様子を説明させる。

留意点：子どもは、通学路の様子を正確に表現できないことが多いので、通学路の目印になる地形や建造物などを確認させる。また、子どもがうまく説明できない部分については、「ここには何があるの？」などと授業者が質問し、通学路のイメージが、子どもの中で明確になるように支援する。(学級活動で行う安全教育に関連させて実施することも考えられる)

## (3) 地図活用指導の要 (小学校3年生)

地図活用の指導は、小学校から中学校、高等学校まであらゆる場面で行われるべきものです。中でも「社会科」が始まる小学校3年生は、地図活用の指導が本格的に始まり、極めて重要な学年です。小学校1・2年生の生活科では、楽しみながら地理に対する感覚を磨くことに重点を置いて指導をしています。実際に、地図帳が配布されるのは4年生ですが、3年生では、具体的な地図活用の技能習得に重点を置き、地図の読み取りや活用に無理なく移行し、地理的認識を深める指導が重要になります。以下にその指導のポイントを具体例と併せて、7点挙げます。

### ア 鳥瞰<sup>ちようかん</sup>図や立体地図、航空写真などを活用して、絵地図から平面地図へ無理なく移行させる

地図とは、立体的な地形を平面上に表現したものであり、抽象的なものです。子どもたちの中には、現実の地形と地図を結び付けられない子どももいます。そこで、両者を無理なく結び付けるための指導が必要になります。以下の指導の例を参考に、子どもたちの地理的認識を、段階を追って深めていくようにしましょう

### 指導の例 床地図遊び

- ・市販の掛地図や、模造紙に描いた地図を床に広げて遊ばせる。
- ・子どもに指人形を持たせ、地図の上で空想の旅をさせる。

留意点：広い地図を床に広げ、子どもの視線の方向と地図を一致させることで、平面地図の認識が深まる。

### 指導の例 自分で作った地図を持って探検に出かけよう

- ・身近な地域の絵地図を描かせたのち、その地図を持って地域を探検させる。

## イ 方位を使った相対的な位置関係（方位・距離）を把握させる

方位については、小学校学習指導要領解説社会編では、最初に四方位を取り上げ、八方位については「第4学年修了までに身に付けるようにする。」と示されています。3年生の段階では、体験と結び付けて方位を認識させるようにするとよいでしょう。

### 指導の例 方位の感覚を身に付けよう

- ・高いところに登って、東西南北の風景を確認させる。
- ・方位の目標物になる山や建造物を確認させる。

留意点：教室の東西南北の壁に、方位を書いた紙を貼っておき、普段の学習活動の中で、意識的に確認するとよい。

### 指導の例 よく行く場所はどこにある？

- ・学区を表した模造紙大の略地図を作成し、子どもたちが知っている場所（図書館、交番、消防署、スーパーマーケットなど）を、絵で描かせたり、シールを貼らせたりするなどして地図上に記入させる。
- ・「交番は学校からどちらの方位にありますか？」と質問する。教室から見た実際の方位も併せて指で指し示すようにさせる。
- ・「図書館と、消防署では、学校からでは、どちらが遠いですか？」と質問し、距離の感覚を養う。

## ウ 縮尺の基礎が分かるようにさせる

縮尺の概念は、分かりにくいものです。「1万分の1」や「2万5千分の1」などの縮尺の計算が苦手だという方は、大人でも多いでしょう。小学校の段階では、縮尺の計算ができることを求めています。例えば、大きさの異なる紙に同じ地域の地図を描き分けさせると、建物を小さく描き直したり、道路を細く描いたりするなど、子どもたちは工夫をします。その過程で、縮尺の概念の基礎が身に付くのです。ここでは、「地図というものは、現実の地形を縮めて描き込んだものだ」ということを体感的に認識することがポイントです。

### 指導の例 大きな紙や小さな紙に地図を描こう

- ・始めに大きな紙（画用紙大）に地図を描かせ、その後、A4サイズの小さな紙に同じ地図を描かせる。

留意点：白紙の状態から略地図を描くことが難しい場合は、基準となる地形や建造物（地域の川や山、学校など）をあらかじめ描き込んでおいた紙を用いる。

### 指導の例 実際に歩いて確かめよう

- ・学校の周辺の比較的正確な略地図を示し、地図上の2点間の距離（例えば学校の敷地の一边の距離など）を教える。
- ・実際に歩いて、距離を確かめさせる。

留意点：第3年生算数の距離（km）の学習と連動させるとよい。

## エ 地図上の土地の高低を読み取れるようにさせる

小学校3年生では、市や町の地形の様子を学習します。市や町の地形を、白地図上に様々な形で表現して、地域の地形のイメージを把握させる指導は、よく行われていることと思います。しかし、実際の地形と地図上の地形が、子どもたちの中で、本当に結び付いているのでしょうか。実際に窓の外に広がる地形と、地図とを対応させたり、航空写真を入手して地図と比較させたりするなどして、地図上の地形の特徴を実際の地形と結び付ける指導が必要です。

### 指導の例 立体模型を見てみよう

- ・地域の資料館や博物館には、市や町の立体地図模型が展示してある所もある。社会科見学の際などに、そのような模型を見学させて、市・町全体の地形のイメージを持たせる。

## オ 簡単な分布の様子がわかるようにさせる

小学校3年生の市や町の学習では、地域の大まかな様子を把握する学習（工場地帯や住宅街の位置、商店街の場所など）がなされます。これは地図を読み解く上で重要な技能である「分布を把握する」力の基礎を養っているのです。分布を把握する力は、高学年の社会科学学習で不可欠な力です。

授業者は、地域の地理的事象を丁寧に下調べをしておく必要があります。そのためには、地域の地形図を入手し、そこから工場や学校、公共施設の分布を把握しておきましょう。地形図は、全国の地図販売店で入手できますが、インターネット上でも2万5千分の1の地形図が閲覧できます（国土地理院「電子国土ポータル」<http://portal.cyberjapan.jp/>）ので、教材研究の参考にしてください。

## カ 市・町の略地図が描けるようにさせる

ここでいう略地図とは、子どもたちの住む市や町について、その形や、山、川などの分布、市街地、駅、道路などの位置が大まかに示されたものです。小学校3年生の行動範囲は狭く、市や町の地理的認識は非常に浅いといつて良いでしょう。そのような子どもに、いきなり地図を描けといつても無理があります。はじめは授業者が、市や町の地図を提示し、少しずつ市や町のイメージを定着させることが重要です。

市や町のイメージを認識させるポイントとしては、子どもたちがよく立ち寄る場所（例：駅、大きなスーパーマーケット、公園、図書館）などの施設を地図上に描き込み、更に公共施設、交通機関など生活と関わりの深い施設に拡げていくと良いでしょう。

## キ 簡単な地図記号の読み取りと、活用ができるようにする

小学校学習指導要領社会第3学年及び第4学年の内容(1)の取扱いには、「方位や主な地図記号について扱うものとする」さらに「自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子に関する内容の指導において、観察、調査した結果を地図に表したり地図を読み取ったりする際に必要となる方位や主な地図記号を理解し活用できるようにすること」としています。

ここで大切なことは、地図記号を覚えさせることではありません。なぜ、地図には共通の地図記号が必要なのかを理解させることです。

地図を描く活動の中で、子どもたちは、特徴のある地形や建物、鉄道などを描くとき、各自の表現方法で描きます。しかし、自分の描いた地図を他の子どもと見せ合ううちに、それぞれの表

現方法や意味合いが異なることに気付きます。そうして、同じ地域を表現した地図であるのに、全く異なる表現方法が使われていることの不便さに気付きます。そこから、「地図を見た人が誰でも理解できるようにするために、共通の地図記号が決められているのだ。」ということを手感的に理解させるのです。

取り扱う地図記号は、地域の学習で取り上げた公共施設などとの関連に留意して、学校や警察署、消防署、工場、神社、寺院、市役所や町役場などの建物・施設に関わるもの、そして、田、畑、果樹園などの土地利用に関わるもの、鉄道、駅、道路などの交通に関わるものなどを取り上げます。

中学校以上では、より多くの地図記号に出会います。地図記号のデザインの由来などにも目を向けると、子どもの興味・関心が高まります。

### 指導の例 地図記号カルタ

- ・厚手の画用紙を適当な大きさに切って、取り札と読み札を作る。
- ・取り札には地図記号を描かせ、読み札には、地図記号に関係した文章を書かせる。
- ・二組のカルタの取り札を合わせると、神経衰弱ゲームもできる。
- ・地域を表した大きめの白地図を準備し、取り札の地図記号を使って、地域の地図を完成させる。

### ク 白地図に調べたことや分かったことを表現させる

社会科の学習に限らず、多くの教科で「調べ学習」や「問題解決的な学習」が盛んに行われています。その際、調べたことをまとめ、表現する手段として、白地図を用いると効果的にまとめられることがあります。文章や表・グラフなどでまとめたものを、白地図と組み合わせることで、地理的な情報が加味され、説得力が高まり、視覚的にも印象に残ります。

### 指導の例 白地図にまとめてみよう

- ・理科：学校の周囲で見つけた生き物や植物を白地図上に表現する。
- ・社会：古くから残る建造物を白地図上に表現する。
- ・社会：地域にある商店や工場の位置を白地図上で表現する。

### コラム 地図の名称

本書も含め一般に土地の様子を描かれているものを私たちは「地図」とひとまとめにしています。ですが、国土交通省国土地理院発行の一般図のうち正確にはその縮尺で、5万分の1以下の図を地形図といい、2千5百分の1・5千分の1の図は国土基本図、20万分の1の図は地勢図、50万分の1の図は地方図、100万分の1・300万分の1・500万分の1の図は国際図といいます。当然ですが、授業で扱う地域の範囲によって扱う縮尺を変えなければ効果的な活用はできません。

## (4) 地図帳の活用指導

皆さんは、地図帳が文部科学省の検定を経ている「教科書」であることをご存じでしょうか。教科書である地図帳は、小学校から中学校、そして高等学校に至るまで、社会科、地理歴史科・公民科の学習に不可欠なものです。

非常に活用頻度が高い「教科書」でありながら、系統だった活用指導がおざなりになっていた感はありません。ここでは、地図帳の活用指導に焦点をあてます。

子どもたちが初めて地図帳に出会うのは、小学校4年生です。また、中学校1年生では、小学校の地図帳よりも詳しい地図帳が配られます。真新しい地図帳を手にした子どもたちは、楽しそうにページをめくり、地図を眺めます。このタイミングを大切に、子どもたちの印象が新鮮なうちに地図帳に対しての興味・関心を高めるとともに、その基本的な活用方法を指導する必要があります。以下にその指導のポイントを具体例と併せて、4点挙げます。

### ア 地図帳に興味・関心を持たせる

地図帳が配布されて間もない時期には、地図帳を活用した遊びを通して、子どもたちに地図帳を見る楽しさや、地図帳の構成などをつかませることが大切です。机上旅行（空想旅行）などを行って、子どもの興味・関心を高めるとよいでしょう。

#### 指導の例 地図帳で「指旅行」

- ・ 地図帳を使って、「空想の旅」をする。
- ・ 授業者の誘導で、「〇〇へ行ってみましょう。」と行き先を指定し、旅行経路をたどっていく。目的地までの道路や鉄道、航空路線、船路線などの経路を、指でなぞらせることで、経路の認識を育む。
- ・ 小学生ならば、顔のイラストを描いた紙やシールを人差し指の先に貼り、あたかも自分が地図上で旅をしているかのように印象付ける。
- ・ 中学生ならば、より詳細な「机上旅行計画」を立てさせ、発表させる。

留意点：授業者は、地図帳の旅行経路途中に記載されている特徴的な凡例（名物や史跡など）について、簡単に触れながら進む。

### イ 地図帳の記号（凡例・地図記号）を理解させる

地図帳には様々な約束事が決められています。その一つが凡例です。初めて地図帳と出会った子どもたちは、凡例を全く意識していません。ここでは、以下の点を押さえて指導をする必要があります。

- ・ 地図には、様々な記号や表現の約束があり、それを「凡例」と呼ぶこと
- ・ 地図帳全体に共通する凡例は、地図帳の最初のページに記されていることが多く、また、各ページ固有の凡例も存在すること
- ・ 地図帳の地図の方位は、ページによって異なり、方位記号に注意すること
- ・ 地図に使われている色についても約束があること（例：山は茶色、平野は緑色 など）

凡例を把握することで、位置や分布の把握がより正確にできるようになります。地図を見るときには、必ず凡例を確認する習慣を身に付けるように指導しましょう。

## ウ インデックスを活用して地図帳で位置を探させる

地図帳で、ある都市を探したいときにインデックスを使えば効率よく探すことができます。インデックスの活用は、地図帳活用スキルの中でも、最も重要なスキルです。インデックスの活用方法については、どの地図帳にも分かりやすく書かれています。ただし、座標の考え方が身に付いていない子どもには、インデックスの活用は難しい場合があります。

### 指導の例 「知らない街（地名）探し」競争

- ・ 地図帳のインデックスを使って、見知らぬ都市を探す競争をする。
- ・ 珍しい地名や、面白い地名などを探させる。(例：鹿児島県の宝島など)
- ・ 見つけた地名の周辺の地図の記号を確認して、その地域の様子を想像させる。

留意点：インデックスがうまく活用できない子どもがいる場合は、ペアや班で協力して探すようにする。

## エ 分布図の見方を理解させる

分布図とは、あるものの位置や広がりやを把握するために作られた地図です。いずれの地図も、多くは統計情報と関係し、地図の正確さよりも、見やすさや伝わりやすさを重視して作られることが多いようです。分布図の見方を指導するポイントは次の2点です。

- ・ 記号の分布の様子や数量について把握させる
- ・ 記号の分布の様子や数量について「なぜ？どうして？」を考えさせる

凡例の確認指導は前述しましたが、分布図の指導においても非常に重要です。分布図には、その図だけに使われる特別な記号が多く、子どもたちも初めて出会う記号に戸惑うこともあります。また分布図の記号のなかには、図案化され、象徴化された記号が用いられることも多く、一見しただけでは、子どもたちには理解しがたいものもあります。分布図の凡例は、通常の地図を読むときよりも丁寧に指導する必要があります。

次に、分布の様子を把握させる際には、以下の視点を意識することが大切です。

- ・ 位置 ……どこに？
- ・ 量 ……どれくらい？
- ・ 広がり ……どれくらいの範囲に？
- ・ 比較 ……他の地域はどうか？

このような分布の正確な把握があつてこそ、「なぜ？」「どうして？」の追究が生きてくるのです。

## (5) 地図を読み取るための基本的な技能

地図は子どもにとっては、情報量が多くなかなか扱いづらいものです。授業で地図を効果的に使うためには、地図を読み取る基本的な技能を子どもに習得させる必要があります。子どもに身に付けさせたいポイントを3点挙げます。

### ア 縮尺の基本的な考え方が分かる

子どもたちは、多くの地図に触れる中で、地図というものが実際の地形を縮小して表現しているものだという点を感覚的に理解するようになります。地図帳の活用においては、これまで培った感覚的な縮尺の概念を、数値（距離）で把握できるようにします。具体的には、以下の3点を知ることがポイントになります。

- ・縮尺目盛りが、地図上の距離を表していること
- ・縮尺目盛りを基準に、地図上の距離を測ることができること
- ・絵地図やイラストマップなど、縮尺が正確ではない地図には縮尺目盛りがないこと

#### 指導の例 地図上の距離を測ってみよう

- ・縮尺目盛りを細長い紙テープなどに正確に転写し、それを使って、地図上の2点間の距離を測る。
- ・縮尺目盛りとコンパスを使って、地図上の2点間の距離を測る。

### イ 等高線の基本的な概念がわかる

多くの地図では、土地の高低を等高線によって表現しています。しかし、等高線の概念は簡単には身に付きません。

等高線についての基礎的な指導は、小学校4年生で行われます。しかし、等高線の指導については教科書の記述に差があり、さらには授業者によって指導に軽重の差が生じているというのが現状です。また、小学校の地図帳では、等高線の見方についてごく簡単に触れている程度です。等高線について本格的に学習するのは、中学校の地理的分野ですが、小学校段階でも等高線の基礎的な概念は押さえておきたいものです。

ここでは、実物教材を用いた指導法を2点挙げます。

#### 指導の例 ジャガイモで等高線を学ぼう

- ・大きめのジャガイモを縦に半分に切り、それを山に見立てて、地面と水平に等間隔で輪切りにしていく。
- ・輪切りにしたジャガイモの縁に沿ってペンでなぞり、等高線を表現する。
- ・ジャガイモを重ねたり、分解したり、様々な角度から見たりして、等高線の概念を感覚的に学ぶ。
- ・真上から見ることで、地図に表した等高線と同じように同じ円のように見えることを確認させる。

### 指導の例 弁当パックのフタを使った等高線立体地図模型

弁当パックのフタを使って、等高線学習に活用できる立体地図教材を作ることができます。  
(考案者:山口県 松村浩一教諭)

準備するもの：透明な弁当パックのフタ（5～6枚）  
鉛筆 油性サインペン等 セロハンテープ  
元になる等高線を描いた図

作り方：

- ① 透明な弁当パックのフタの大きさに合わせて、元図を作ります。
- ② 元図を、フタの裏にセロハンテープで貼り付け、表側から油性ペンで等高線をなぞります。1枚のフタに同じ標高の等高線一本だけ描きます。
- ③ 等高線の本数だけ、同じようにフタに描いていきます。
- ④ 最後に重ねてセロハンテープで留めて完成です。
- ⑤ 正確な等高線を地形図から転写して作成すると、精密な立体地図ができあがります。

以下のサイトに、実践例・元図が等高線コレクションとして紹介されています。



群馬大学教育学部（早川由紀夫）「弁当パック立体模型」

（研修中の作業より）

<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~hayakawa/project/kazan3D/bento/index.html>

## ウ 土地利用の様子などのその土地の様子が読み取れる

地図帳には土地利用について非常に多くの情報が詰め込まれています。地図帳から、子どもたちに土地利用の様子を把握させたいとき、どのようにして読み取らせればよいのでしょうか。この場合のポイントは以下の4点です。

- ・まずは、土地利用の様子を把握したい地域（都道府県・市町村）が、どこに位置しているか把握する。
- ・次に地形を把握する。
- ・続いて、田畑や工場などの分布から土地利用の様子を把握する。
- ・市街地や道路・鉄道の分布を把握させ、産業や暮らしとの関連性に結び付ける。

位置の把握→地形の把握→土地利用の把握→人口・交通の把握→産業・暮らしの把握という段階を追って学びます。

土地利用の様子を把握させる場合、まず押さえておきたいのは、位置と地形の把握です。子どもたちの中には、静岡県の全国における位置について知らない子どもも多いと思われます。日本列島の形ですら、漠然としか把握できていない子どもも多いので、地図帳の日本全図などを活用し、確認をしておきましょう。

地形の把握については、地形的特色が地域の産業や暮らしに影響を与えていることは、今さら強調するまでもありません。地形の把握を怠って、地図記号だけで土地利用を追うことは避けなければなりません。等高線の様子や凡例を把握しつつ、地形と土地利用の様子を関連付けて指導しましょう。

## (6) 歴史学習と地図活用

歴史学習における地図の活用の現状は、歴史的事象が起こった場所を確認するために、教科書や副読本（歴史資料集）の略地図を見て終わることが多いのですが、歴史学習においても地図は大いに活用したいものです。

### ア 歴史学習に地図帳を活用する

地図帳には、歴史的事象に関連したものが多く掲載されています。例えば、静岡県が掲載されているページを開くと、西から新居関跡、三方原古戦場、大井川川越遺跡、登呂遺跡、韮山反射炉、日米和親条約開港地の下田と、数多くの遺跡や史跡があります。

歴史学習で地図帳を使うことには、以下の利点があります。

- ・歴史的事象が起こった地点と現在の都市との位置関係を確認できる。
- ・歴史的事象が起こった地点の、地形が確認できる。

例えば、関ヶ原の戦いがあった場所を地図帳で調べると、現在の岐阜県と滋賀県の県境付近であることが分かります。また、東海道新幹線や東海道本線、国道や東名高速道路が密集して通っていることから、関ヶ原が現代においても交通の要所であることが推察できます。

歴史学習の目標は「自分たちの生活の歴史的背景、わが国の歴史や先人の働きについて理解や関心を深めるようにする（小学校学習指導要領社会第6学年）」ことです。つまり、現在の生活と歴史的な事象を結び付けて考えることが重要になります。地図帳は現在の日本や世界の現状を表したものです。地図帳を歴史学習で活用することで、現在と過去を結び付ける学習が可能になるのです。ぜひ、歴史学習において地図帳を積極的に活用しましょう。

### イ 歴史について学んだことを白地図にまとめる

「言語活動」の充実の観点から、これからは歴史学習においても、子ども自らが調べてまとめ、発表する学習活動が重視されます。その際、地図（白地図・略地図）を用いることで、より効果的なまとめができるようになります。地図を用いてまとめることで、歴史に関する情報と地理に関する情報が融合し、歴史に対するより深い理解が進むのです。

### ウ 地図を手に地域の歴史を訪ねる

地域の地図を片手に、地域に残る史跡や石碑などを訪ねる活動も重要です。地域の伝承や言い伝えの舞台を訪ね、地図上に書いていけば、地域の歴史地図ができあがります。実際に現地を訪ねることで子どもたちは歴史の息吹を感じ取り、学習内容を豊かに追究することができるのです。

**コラム** 模造紙に地図を描く方法

パソコンとプロジェクターを使って、広い模造紙に大きな地図を正確に描いてみましょう。

準備するもの：模造紙（必要枚数）  
鉛筆  
太いサインペン等  
パソコン  
プロジェクター



- ① パソコンに拡大したい地図を取り込む（スキャナー、またはデジタルカメラを活用）。
- ② 黒板などに貼り付けた模造紙に、プロジェクターで地図を投影する。
- ③ 描きたい地図の輪郭や道路，建物の位置などを鉛筆でなぞる。
- ④ 太いサインペンなどで鉛筆の跡をなぞる。

※ 複数の模造紙に地図を描き，縦横につなげれば，教室いっぱいに広がる地図も描けます。

**コラム** B4判以上の大きな図版をカラーで用意する方法

グループ学習に使う資料や提示資料などに大きめの図版を広げて授業をしたいが，A4判より大きな紙を出力する環境がない場合はありませんか。白黒で良いなら，拡大コピーを使う方法がありますが，カラーとなるとなかなか難しく，コストもかかります。

そんなときは，お使いのプリンターのプロパティにポスター印刷などの拡大機能がついていないか確認しましょう。パソコンで作成したものや取り込んだ写真などに応用が利きます。印刷後，のりなどで貼り付ける手間は掛かりますが，知っているとう級掲示などいろいろな場面で活用できます。

## (7) 略地図の描画指導

「地図を参考にしないで、フリーハンドで、静岡県の略地図を描いて下さい。」と言われて、すらすらと描ける人はどれくらいいるのでしょうか。ある地域の略地図を描くとき、私たちは、勝手な思いこみや勘違いで、本来の形とは似ても似つかぬ形を描いてしまうことがあります。そのとき描かれた略地図には、描き手の地理的認識の度合いが現れています。略地図が描けるということは、頭の中に地図のイメージ（メンタルマップ）ができていているということです。メンタルマップがしっかりと形成されることで、社会科の学習はさらに深まります。ここでは略地図の描画指導についてまとめます。

### ア 学習指導要領で強調される略地図の描画能力

略地図を描く技能について、中学校学習指導要領社会科地理的分野の(1)世界の様々な地域 ア世界の地域構成の「内容の取扱い」アにおいて「アについては、学習全体を通して、大まかに世界地図を描けるようにすること」とされ、また、同じく(2)日本の様々な地域 ア日本の地域構成「内容の取扱い」アにおいて「(ウ)学習全体を通して、大まかに日本地図を描けるようにすること」とされています。

さらに世界地図の略図描画については「赤道や本初子午線など目安となる緯線、経線を基準として、大陸の形状や大陸と海洋の位置関係が大まかに示されている程度の世界の略地図を描けるようにする」とされています。また、日本地図の略図描画については、「日本の領域の広がりや東経135度の経線などに留意しつつ、日本を構成する主な島々の大まかな形状や位置関係が分かる程度の略地図が描けるようになる」とされています。

略地図を描くことができるようになることで、日常生活を営む中で様々な地理情報を地理的認識に結び付けることができるようになるでしょう。略地図の描画技術は、いわば地理学習の座標軸を形成する技術です。こうした技術をしっかりと身に付けることで、学習成果がさらに向上すると考えられます。

### イ 略地図を描く上でのポイント

略地図は人それぞれの描き方があり、簡略化・抽象化する度合いも様々です。略地図を描く場面とは、多くの場合、誰かに地理的な情報を伝えたい場合です。そうになると、簡略な地図とはいえ、相手に伝わる程度の正確さも必要になります。

ある程度正確な略地図を描くために、子どもに押さえさせたいポイントを5点挙げます。

#### (7) 略地図を描かせて自己認識させる

まずは子ども自身に、描こうとする地域についてどの程度理解しているのかを、自己認識させる必要があります。多くの子どもは、略地図を正確に描けないでしょう。正確に描けないからこそ、実際の地形はどうなっているのかと、子どもは意識的に地図を見るようになり、地形の把握も進むのです。

#### (イ) 緯線・経線を把握させる

緯線・経線（緯度・経度）は、普段の生活ではほとんど意識することはありません。しかし、カーナビゲーションや携帯電話のGPS機能などに緯度・経度の座標データが使われており、意外と身近な所で使われている基本的なデータです。略地図描画においても、この緯線・経線を基準として、全体の地形の配置やバランスを取ることが重要です。

### (ウ) 抽象化させる

略地図において子どもが悩むのは、「どこまで詳しく地形を再現するべきか」といったことでしょう。子どもの中には、より細かく正確な地図を描くことに執着する子もいますが、地図の正確さにこだわりすぎて、本来追究すべき社会的事象の研究がおろそかになってしまえば本末転倒です。略地図は、その地形の特徴を適切に捉え、可能な限り抽象的に描くことが必要です。抽象化の度合いは、略地図の用途によって変わりますが、例えば、直線だけで描いたり、三角形や四角形などで描いたりするなど、思い切った簡略化が効果的です。

### (エ) バランスをとらせる

略地図を描くときに、地域の略地図ならば、駅や学校などの目印となる建物や地形の配置バランスを、日本や世界の略地図ならば、大陸や島、半島などの大きさや配置のバランスを意識させると、地図の正確さが向上します。配置のバランスをとることは、略地図描画の正確さを高めるという目的以上の学習効果があります。例えば日本列島周辺の略地図を描かせたときに、北海道と九州の大きさや位置のバランスについて意識させることで、「九州よりも北海道のほうが広いのだな。」と、子どもは気付きます。バランスを考えるということは、地図読図に必要な広さや距離の感覚を磨くことにもつながります。

なお、日本や世界の略地図を描く際に、緯線・経線が、全体のバランスを取る基準になることはいままでもありません。

### (オ) 州名（地方名）を入れさせる

略地図を上手に描けても活用できなければ意味はありません。例えば、世界の略地図ならば各州名（大陸名）、日本ならば地方名などを書き込ませてみましょう。

なお、世界におけるロシア連邦の扱いについては「設定する主題との関連から、アジア又はヨーロッパのいずれかに位置づけて扱うこと」になっているので、その略地図を何に使うのかで変わるので的確に指示を出しましょう。

上記の5点を押さえたうえで、次に世界地図、日本地図、静岡県の略地図描画の指導法を整理しました。指導の参考にしてください。

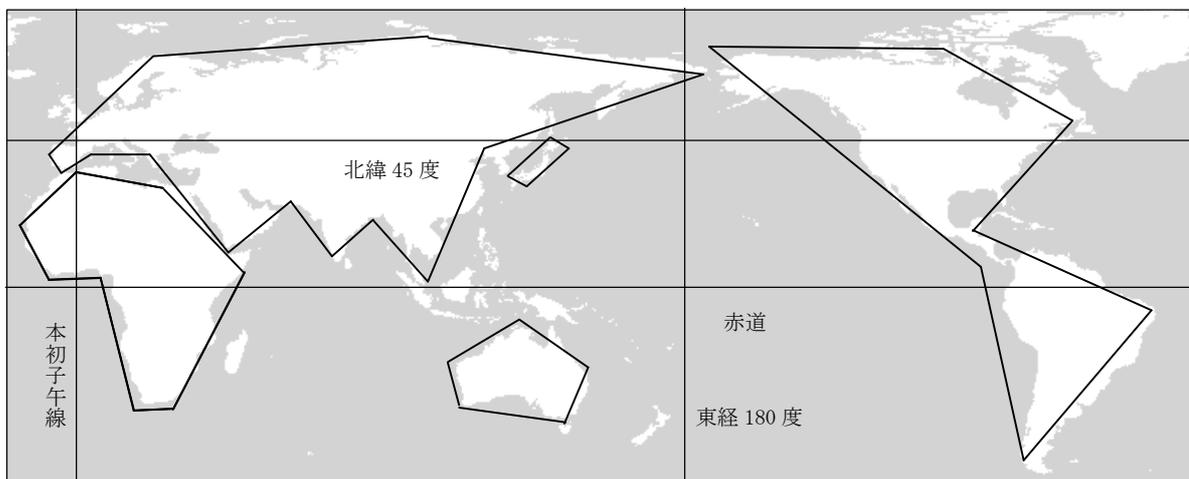
## ウ 世界略地図の描き方指導のポイント

- ・子ども自身に、何も見ないで世界地図を描かせる
- ・自分が描いた地図と、地図帳の世界地図を比べ、違いを確認させる
- ・世界地図をよく見て、全体の大まかな特徴を捉えさせる
- ・赤道・標準時子午線など、基準となる緯線・経線を確認させる
- ・トレーシングペーパーなどを世界地図の上に乗せ、大地形の輪郭に沿って、なぞり描きをさせる
- ・別の紙を用意し、世界地図を見ながら大地形を確認しながら模写させる。その際、基準となる緯線・経線をもとに、大陸や半島、島の配置バランスを確認させる
- ・大陸や半島、島などの大地形を、三角形や四角形などの抽象化した形で捉えさせる

### 世界の略地図を描く（例）

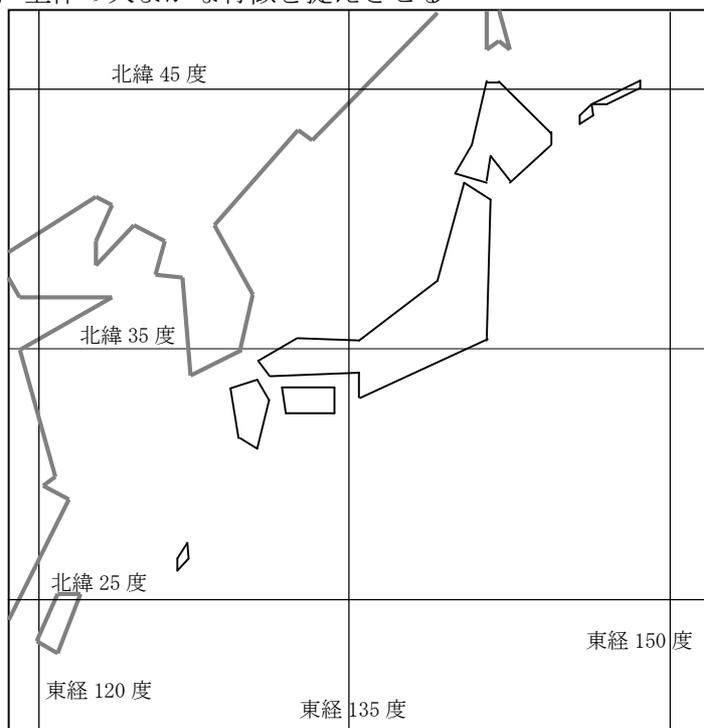
- ① 本初子午線と180度の経線を引く
- ② 赤道と北緯45度の緯線を引き、これらの線を目印にして、略地図を描く  
(ポイントとしては、南アメリカ大陸・アフリカ大陸は赤道をまたぐが、ユーラシア大陸は赤道にはかからない)
- ③ ユーラシア大陸を描き、インドシナ、インド、アラビアなどの半島を表すようにする

- ④ アフリカ大陸を描き、赤道と本初子午線を目印にする
- ⑤ 北アメリカ大陸と南アメリカ大陸を描く
- ⑥ オーストラリア大陸を赤道にも経度 180 度にもぶつからないように描く
- ⑦ 日本を北緯 45 度から南側に描く
- ⑧ 必要に応じて、イギリス（本初子午線上）なども表したい



## エ 日本の略地図の描き方指導のポイント

- ・子ども自身に、何も見ないで日本地図を描かせる
- ・日本列島だけでなく、朝鮮半島や台湾など、周辺地域まで含めて描画させる
- ・自分が描いた地図と、地図帳の日本列島の地図を比べ違いを確認させ、日本列島が弓なりに配置（弧状列島の特徴）されていることに気付かせる
- ・地図帳の日本列島の地図をよく見て、全体の大まかな特徴を捉えさせる
- ・東経 135 度、北緯 35 度など、基準となる緯線・経線を確認させる
- ・トレーシングペーパーなどを日本列島の地図の上に載せ、地形の輪郭に沿って、なぞり描きをさせる
- ・別の紙を用意し、日本列島の地図を見ながら、特徴的な地形を確認しつつ模写をさせ、東経 135 度、北緯 35 度などの基準となる緯線・経線をもとに、北海道・本州・四国・九州・南西諸島などの島々の配置バランスを確認させるとともに朝鮮半島や台湾との位置関係も確認させる
- ・半島、島などの地形を、三角形や四角形などの抽象化した形で捉えさせる



**日本の略地図を描く（例）**

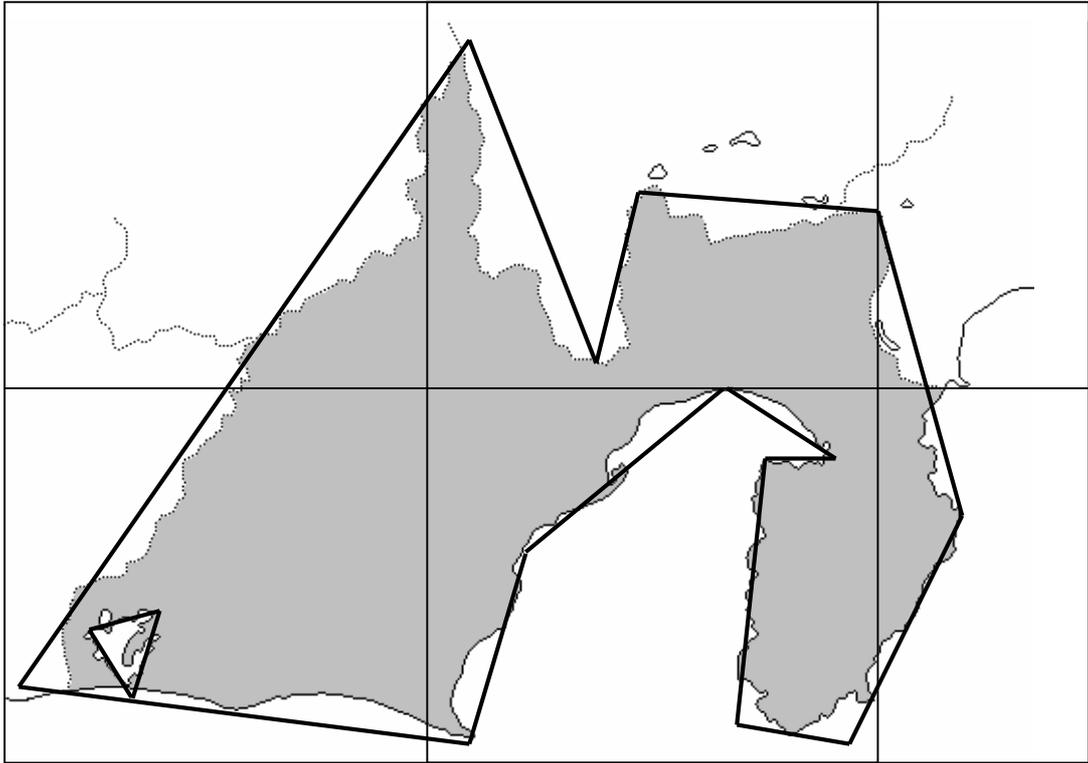
- ① 東経 120 度，東経 135 度，東経 150 度の経線を引く
- ② 北緯 45 度，北緯 35 度，北緯 25 度の緯線を引き，これらの線を目印にする
- ③ 北海道を東経 135 度と 150 度の間，北端が北緯 45 度より北になるように注意して描く
- ④ 北方領土を描く
- ⑤ 本州を北緯 35 度と東経 135 度に気を付けながら曲げて北から描いていく  
大きな半島に注意して描いていく  
紀伊半島の位置が東経 135 度より東になるようにする
- ⑥ 四国は東経 135 度より西に描く
- ⑦ 九州は，五角形に描くと，形がまとまりやすい
- ⑧ 沖縄島は，東経 120 度と 135 度のちょうど中間あたりに描く
- ⑨ 大陸との位置関係に気を付けて日本の略地図を描きたい
- ⑩ 必要に応じて，佐渡島などの島や主な半島も表したい

**オ 静岡県の略地図の描き方指導のポイント**

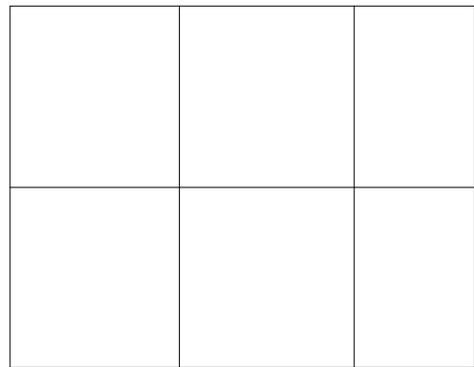
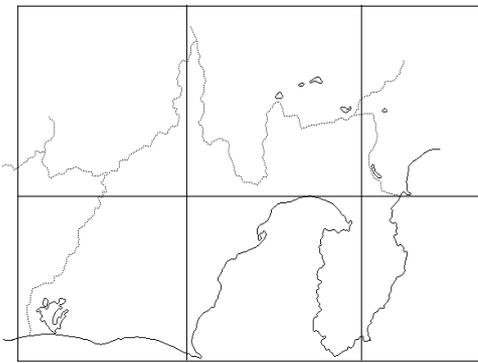
- ・子ども自身に，何も見ないで静岡県を描かせる
- ・静岡県の輪郭だけでなく，周辺の都県まで含めて描画させる
- ・自分が描いた地図と，地図帳の静岡県の地図を比べ，違いを確認させる
- ・地図帳の静岡県の地図をよく見て，全体の大まかな特徴を捉えさせ，県北端の赤石山脈付近の槍状になった県境の形に着目させる
- ・静岡県の北端と御前崎近辺を結んだ経線や，神奈川県の実鶴岬から駿河湾の北端（田子の浦付近）を結んだ緯線が描画の基準となる
- ・トレーシングペーパーなどを静岡県の地図の上に載せ，県境線をなぞらせる
- ・別の紙を用意し，静岡県の地図を見ながら，特徴的な地形を確認しつつ模写させる
- ・浜名湖，伊豆半島などの地形を抽象化した形で捉えさせる

**静岡の略地図を描く（例）**

- ① はじめに，縦3本，横3本，補助線を引く（正方形が4つ，長方形が2つできるように）
- ② 次に，これらの線を目印にして，海岸線を描く（御前崎，駿河湾，伊豆半島の位置などが目印になる）
- ③ 浜名湖西側から赤石山脈までを描いていく（静岡県の北端などが目印になる）
- ④ 最後に，赤石山脈から富士山周りを描いていく



\*練習用



## (参考文献)

- 寺本潔 岩本廣美 吉田和義 『子供の手描き地図からみた知覚空間の諸類型』  
愛知教育大学研究報告, 40 (人文科学編) 1991
- 岩本廣美 『子供の心像環境における「身近な地域」の構造』地理学評論 54-3 1981
- 寺本潔 大西宏治 『子どもは身近な世界をどう感じているか—手描き地図と写真投影法による知覚  
環境把握の試み—』愛知教育大学研究報告 44 (人文科学編) 1995
- 寺本潔 大西宏治 『子どもの初航海—遊び空間と探検行動の地理学』古今書院
- 寺本潔 池俊介 『アイデアいっぱい地図授業—絵地図から地球儀まで』日本書籍
- 寺本潔 『子供の知覚環境の発達に関する基礎的研究—熊本県阿蘇谷の場合—』  
地理学評論 57-2 1984
- 寺本潔 『子どもの知覚環境形成に関わる研究と教育の動向』人文地理 第55巻第5号
- 寺本潔 『地図の学力』明治出版
- 北俊夫 『あなたの社会科授業は基礎・基本を育てているか』  
『楽しく学ぶ 小学校の地図帳 4・5・6・年 初訂版 年間指導計画案』帝国書院
- 山下真一 『仕える社会科ベーシック4 絵地図づくりで私たちの町がぐーんと身近になる地域学  
習』学事出版
- 梅沢和夫 『絵画・写真・地図を使って討論を』日本書籍
- 安野功 松田博 『学びの世界が広がる地図学習』日本標準
- 桜井明久 『地理教育学入門』古今書院
- 岩本広美 『フィールドで伸びる子どもたち』日本書籍
- 日本地図センター『地形図の手引き (五訂版)』日本地図センター
- 日本地図センター『改訂版 楽しい地図入門』日本地図センター

## (参考ホームページ)

- 帝国書院「子どもたちの地図力向上に向けて How to 地図活用」  
<http://www.teikokushoin.co.jp/howto/index.html>

- 群馬大学教育学部 (早川由紀夫)「弁当パック立体模型」  
<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~hayakawa/project/kazan3D/bento/index.html>